

町田市長 石阪丈一様

2011年10月19日

日本共産党町田市議団

放射能問題に関する申し入れ

日本共産党町田市議団は、9月30日～10月6日にかけて市内の公園を中心に、16カ所48地点で放射線量の測定をおこないました。

測定の結果、鶴間公園の雨水浸透枳で0.318 μ シーベルト/時、ひなた村駐車場の花壇で0.288 μ シーベルト/時、芹ヶ谷公園の落ち葉集積所で0.251 μ シーベルト/時など、10地点で0.2 μ シーベルト/時を超える数値が検出されました。

公園は、多くの市民が訪れる場所であり、子どもたちが遊ぶ場所です。放射線被ばくは、少量であっても、将来、発がんなどの健康被害が起きる危険性があり、被ばく量は「少なければ少ないほど良い」というのが放射線防護の大原則です。

また、市議会第3回定例会で「小中学校・保育園・幼稚園・公園などの土壌の放射性物質の測定と、学校給食（牛乳などを含む。）の放射性物質の測定を求める決議」が全会一致で可決されました。この決議を重く受け止め、一刻も早い実施を強く求めます。

よって、以下の点について申し入れをおこなうものです。

記

- 一、全小中学校（通学路を含む）、保育園、幼稚園、公園などで放射線量の調査（土壌調査を含む）を継続的におこない、結果を公表すること。測定にあたっては、側溝、排水路、砂場など細かく実施すること。また、放射線量が高い場所は除染をすること。
- 一、学校給食食材の放射性物質の測定をおこない、公表すること。牛乳についてはメーカーに対して、放射性物質の継続的な測定と公表を求めること。
- 一、放射線量について、市独自の被ばく限度の暫定基準を決めること。
- 一、市として放射線測定器を購入し、市民に貸し出すこと。
- 一、庁内に放射能問題に関するプロジェクトチームを設け、市民に対する情報提供や啓発をおこない、市民の相談に応じられる体制をつくること。

以上